様式（委員提出用）

次期中間処理施設整備事業「地域振興策」に関する意見等

印西地区環境整備事業組合
次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会　委員長　福川　裕一　様

意　見

平成　27 年　6 月　27 日提出

委員名　渡邊　忠明

１．　資料、情報の提供は１週間前、遅くとも４、５日前に
　今回は、直前でほかの用件と重なり１時間も拝見できず意見を論理的に整理する時間がなく、表現も乱暴とならざるを得なかった。
　見映えより中味の重視を。

２．　地域振興策検討材料としての地元の情報を
　地域に根差した振興策は地域の構造の把握から生まれる。
　地区の年齢構成、就業構造（地元で働く、地区外で働き地区では寝食のみ等々の構造）営農実態（作目の種類とその面積、従事者数）、商業等他の産業の有無は？等々。
　要するに「３．地域の課題の分析」の裏付けは？⇒振興策のシーズ、種子の確認に役立つ。

３．　成功している地域活性化事例に共通することは
　売り込み先、誘客先等、ニーズ、需要を明らかにした上で、小さく産んで大きく育てる「リーン・スタート アップ（lean ぜい肉がなく引き締まって痩せた）」である。
　住んでいる人が投資しリスクを担うことで真剣になる。
　大きな一つの施設であれもこれもではなく、小さな特化型の施設が集積して、結果的に多くの人が利用できる環境の実現、Ｎｏ１でなく Only１の追求が成功の基。
　選択と集中。農で言えば六次産業化とともに半農半「X」。で身の丈に合ったキラリと光る吉田地区に相応しい「X」は何か。
　売る量よりも利益率。等々、地域に根差し、地域特性を活かしながら地に足のついた検討をお願いしたい。
　外見よりも中味の充実を。

４．　地域活性化、地元の実践者が知の先端
　吉田地区には、独創的な人、活動的な人、最近、地域活性化の若手学識者の言うトンガッタ人が、頑張っていると感じてきたので、その知を尊重したい。